

台灣日文系大四生之生涯自我效能及就業準備行為

溫雅琇¹

王福順²

盧錦姬³

趙順文⁴

¹ 靜宜大學日文系副教授

² 修平科技大學應用日語系副教授

³ 靜宜大學日文系教授

⁴ 開南大學應用日語學系講座教授

摘要

本研究旨在瞭解台灣日文系大四生的生涯自我效能及就業準備行為現況，並進而探討效能及行為是否因個人背景變數而異，以及兩者之間是否存在顯著相關。研究方法為問卷調查分析，有效樣本數為 10 校 503 份，主要研究結果發現：(1) 我國日文系大四生在是否瞭解自己感興趣的職業或未來生活方式，以及是否能進而選擇或決定的能力方面，有中高程度的信心，但對於即將面臨的就業活動（擬定未來計畫、掌握工作招聘傾向、應對面試、準備履歷表等）則顯得信心不足。(2) 我國日文系大四生至四年級上學期為止，雖會自行透過大眾傳播媒體獲取就業訊息或考取資格考及能力證照，但並不常跟師長或親友詢問就業訊息，更少參加校方或地方機構所舉辦的就業講座及就業博覽會。(3) 不同的地區、科系性質及畢業後規劃之間的生涯自我效能有顯著差異，但不同性別、國私立、通過日語能力級數之間的生涯自我效能無顯著差異。另外，在就業準備行為上，以上任何個人背景變數之間均無顯著差異。(4) 生涯自我效能與就業準備行為之間為顯著正相關。但在預測就業準備行為的回歸分析上，只有「問題解決、就業活動及未來計畫效能」能有效預測之。

關鍵字：生涯自我效能，就業準備行為，日文系，大四生

台灣における日本語学科四年生の進路選択に対する自己効力感と就職準備行動

溫雅琚¹

王福順²

盧錦姬³

趙順文⁴

¹ 靜宜大学日本語学科副教授

² 修平科技大学応用日本語学科副教授

³ 靜宜大学日本語学科教授

⁴ 開南大学應用応用日本語学科講座教授

要旨

本研究は日本語学科四年生の進路選択に対する自己効力感及び就職準備行動を調査し、両者の現状、関連性及び属性との関係を明らかにすることを目的とした。主な研究結果は以下の通りである。(1) 進路選択に対する自己効力感の現状について：日本語学科四年生は自己認識および目標選択に対しては中高程度の自己効力感を持っているが、問題解決・就職活動及び未来計画に対しては中程度の自己効力感しか持っていない。(2) 就職準備行動の現状について：日本語学科四年生は四年生の前期まで、マスメディアを利用する職業情報収集及び免許・資格の取得を比較的積極的に行っているが、教師・親・友人などからの職業情報収集や大学主催のキャリアサポート活動への参加などは比較的あまりしていない。(3) 属性の差異について：進路選択に対する自己効力感においてのみ、学校の所在地、学科の性質、卒業後の進路による有意差が認められた。(4) 効力感と行動の関連性について：進路選択に対する自己効力感と就職準備行動との間に正の有意な相関性が認められた。就職準備行動の予測に有効的な変数は「問題解決・就職活動及び未来計画効力」の1つのみであった。

キーワード：進路選択に対する自己効力感、就職準備行動、日本語学科、大学四年生